

子どもの「心を耕す」日本語教育

神谷昌史（滋賀文教短期大学）

1) はじめに

- * 「心を耕す」 ラテン語 colere → culture（耕す → 心を耕す → 教養・文化）
- * 教養・文化は言葉によってしか獲得されない。
- * 母語としての日本語（母語／母国語）

資料①「文化は人が言葉で作っていく。言葉の程度が低いなら、程度の低い文化しか生まれない。人間というものに関するさまざまな理解が深まらない。多くの異なった人たちの存在を認めるといふ、スタートの部分すら出来てはいかない。可能なのは、せいぜいが現状維持ではないか」（片岡義男『日本語の外へ』）

資料②「母語 一般に個人が最初に習得する言葉。子どもが成長の過程で母親など身近な人々から習得する言葉は、本人にとって最も自由な表現の手段であり、思考や人格と結びついた、代替の不可能な言語という理由で、言語心理学や言語教育などでは重視されている」（百科事典マイペディア）

2) 保育の現場から

- * 子ども…家族関係・家庭環境による言葉の違い
言葉＝環境
- * 「人間は環境の子である」（ロバート・オーエン）
周囲の環境が子供に大きな影響を与え、人格を形成していく
- * 言葉がけの大切さ
- * 読み聞かせ

資料③「生まれてくる子はことばをまったく知らないが、ほとんど例外なく四十カ月以内に、言葉を覚える。／覚えるといっても、しっかり教えてくれる“先生”のいることは稀である。まったくわけのわからぬことばを聞いていて、子どもは、ほとんど独力でことばをみにつける。ときに話しかけられることもあるが、多くはまわりの話すことばを聞いてるのである。どういう意味かなど教えられることはない。それでいて、そのうちに、子どもは言葉に意味があることをおのずから知る。そして自分でもことばを発するようになる。すべて自力である」（外山滋比古『幼児教育でいちばん大切なこと』）

3) 大学の現場から

- * 「若者の活字離れ」「SNSでのコミュニケーション」
- * 学力は落ちているのか？

- 測りにくい学力（思考力、判断力、表現力）
- 読書時間の減少
- プレゼンテーション・ディベート…小学校から
- * 若者との会話 3タイプ
言葉の使い分け
- * アクティブ・ラーニング
- * 「聴く力」の不足

4) 社会と言葉

- * 言葉の種類 ①（どこ出身の）地域に根ざした言葉（方言）と共通語（標準語）
の観点 ②（どんな人が）話し手に根ざした言葉（性別・年齢その他）
③（どんな人に）聞き手に合わせた言葉（親疎関係・上下関係）
④（どんな状況で）状況に合った言葉
（どこで＝場面／何について＝話題／何のために＝機能）
⑤（どんな方法で）伝達方法に合った言葉（話し言葉・書き言葉）
〔石黒圭『日本語は「空気」が決める』（光文社新書）より〕
- * どんな人が、どんな人に対し、どこで、何について、何のために、どんな方法で、言葉を発するのか。
- * 内面の言葉と社会に向けた言葉